

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第38号(平成27年11月発行)

平成27年7月21日(火)に平成27年第2回定例会が開会され、7月31日(金)に一般質問と議案2件の審議が行われました。

一般質問では、森康哲議員(四日市市議会選出)、野口正議員(三重県議会選出)の二人から下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

森 康哲 議員



○ **四日市港長期構想にある「都市・住民とともにあるみなと・四日市港」など三つの将来像の実現には水辺の親水空間づくりの視点が欠かせない**と考える。本年4月策定の「四日市港戦略計画2015～2018」では、**具体的にどう取り組んでいくか。**

◎ 開港以来、港の発展を支えてきた四日市地区と、港湾機能や集客施設の集積する霞ヶ浦地区のそれぞれの特性を生かした取組を進めていく。四日市地区では、潮吹防波堤や末広橋梁等の歴史的・文化的資源や運河等の景観に配慮し千歳4号物揚場の緑地整備を進め、周遊できるイベント開催や、市と連携しJR四日市駅から千歳運河に至る案内看板や散策路標識等の設置など、中心市街地の人の流れを港に誘導する取組を進める。霞ヶ浦地区では、日本夜景遺産に認定されたポートビルを核とし、学校教育・社会教育の場に提供するほか、展望展示室からの眺望等を生かし、若者や家族連れ等、多くの県民・市民が来訪し楽しめる空間としていく。

野口 正 議員



○ **グローバルな物流情勢の変化や東アジア諸港の大規模化、国の港湾政策の転換など、四日市港を取り巻く状況は大変厳しいものがあるが、このような中で、今後、どのような港を目指していくのか。**

◎ 四日市港をはじめとする港湾を取り巻く状況の変化については、必要な場所に、安く、確実に輸送したいと考える荷主企業からの要請、一つの港でより多くのコンテナ貨物を獲得し、寄港コストの削減、荷役の迅速化を図りたいと考える船会社からの要請、スーパー中枢港湾から国際コンテナ戦略港湾政策へと転換し、一層の選択と集中を図る国の政策の変化という三つの観点から言えると考えている。このような中、四日市港は新規の施設整備等のハード面と戦略的なポートセールスの展開等のソフト面の施策をうまく組み合わせながら一層の利用促進を図り、「背後圏の産業を支える総合港湾としての機能が充実している港」、「荷主企業や船会社からもっと選ばれる港」の二つの姿を目指していく。

※詳細な質問答弁等については、当組合議会ホームページ会議録をご覧ください。